



MPLS SR および LDP ハンドオフ

この章では、MPLS ハンドオフ機能を構成する方法について説明します。

- [VXLAN EVPN から SR-MPLS および MPLS LDP への相互接続の概要, on page 1](#)
- [VXLAN MPLS トポロジ, on page 3](#)
- [VXLAN MPLS ハンドオフの構成タスク, on page 5](#)
- [MPLS ハンドオフのファブリック設定の編集 \(5 ページ\)](#)
- [アンダーレイ ファブリック間接続の作成, on page 9](#)
- [オーバーレイ ファブリック間接続の作成, on page 11](#)
- [VRF の展開, on page 13](#)
- [ルーティングプロトコルと MPLS 設定の変更, on page 15](#)

VXLAN EVPN から SR-MPLS および MPLS LDP への相互接続の概要

Cisco DCNM リリース 11.3(1) 以降、次のハンドオフ機能がサポートされています。

- VXLAN から SR-MPLS
- VXLAN から MPLS LDP

これらの機能は、**Easy_Fabric_11_1** テンプレートを使用して、VXLAN ファブリックのボーダーデバイス、つまりボーダーリーフ、ボーダースパイン、およびボーダースーパースパインで提供されます。デバイスは Cisco NX-OS リリース 9.3(1) 以降を実行している必要があることに注意してください。これらの DCI ハンドオフアプローチは、外部ファブリックに追加のプロバイダーエッジ (PE) デバイスを必要としないワンボックス DCI ソリューションです。

DCNM DCI MPLS ハンドオフ機能では、ボーダー デバイスを外部ファブリックに接続するためのアンダーレイ ルーティングプロトコルは ISIS または OSPF であり、オーバーレイ プロトコルは eBGP です。VXLAN ファブリックと、SR-MPLS または MPLS LDP を実行している外部ファブリックとの間の NS トラフィックがサポートされています。ただし、SR-MPLS または MPLS LDP 経路で 2 つのデータセンター VXLAN ファブリックを接続するために DCNM を使用できます。

サポートされるプラットフォームと構成

次の表は、サポート対象のプラットフォームに関する情報を示しています。

機能	サポートされるプラットフォーム
VXLAN から SR-MPLS	Cisco Nexus 9300-FX2、Jericho+ ベースの Nexus 9000 R シリーズ、および Nexus 3600 R シリーズ スイッチ
VXLAN から MPLS LDP	Jericho+ ベースの Cisco Nexus 9000 R シリーズ および Cisco Nexus 3600 R シリーズ スイッチ

次の機能はスイッチでサポートされていないため、サポートされていません。

- MPLS LDP と SR-MPLS 相互接続の共存
- vPC

VXLAN から SR-MPLS へのハンドオフ機能は、次の設定で構成されます。

- 基本の SR-MPLS 機能構成。
- DCIハンドオフデバイスと、アンダーレイ接続のための外部ファブリック内のデバイス間のアンダーレイ構成。DCNMは、アンダーレイ接続のルーティングプロトコルとしてISIS または OSPF をサポートします。
- DCI ハンドオフ デバイスと、外部ファブリック内のコア ルータまたはエッジルータ、または別のファブリック内の別のボーダーデバイスとの間のオーバーレイ構成。接続はeBGP を介して確立されます。
- VRF プロファイル

VXLAN から MPLS LDP へのハンドオフ機能は、次の設定で構成されます。

- 基本 MPLS LDP 機能設定。
- DCIハンドオフデバイスと、アンダーレイ接続のための外部ファブリック内のデバイス間のアンダーレイ構成。DCNMは、アンダーレイ接続のルーティングプロトコルとしてISIS または OSPF をサポートします。
- DCI ハンドオフ デバイスと、外部ファブリック内のコア ルータまたはエッジルータ、または別のファブリック内の別のボーダーデバイスとの間のオーバーレイ構成。接続はeBGP を介して確立されます。
- VRF プロファイル

MPLS ハンドオフのためのファブリック間接続

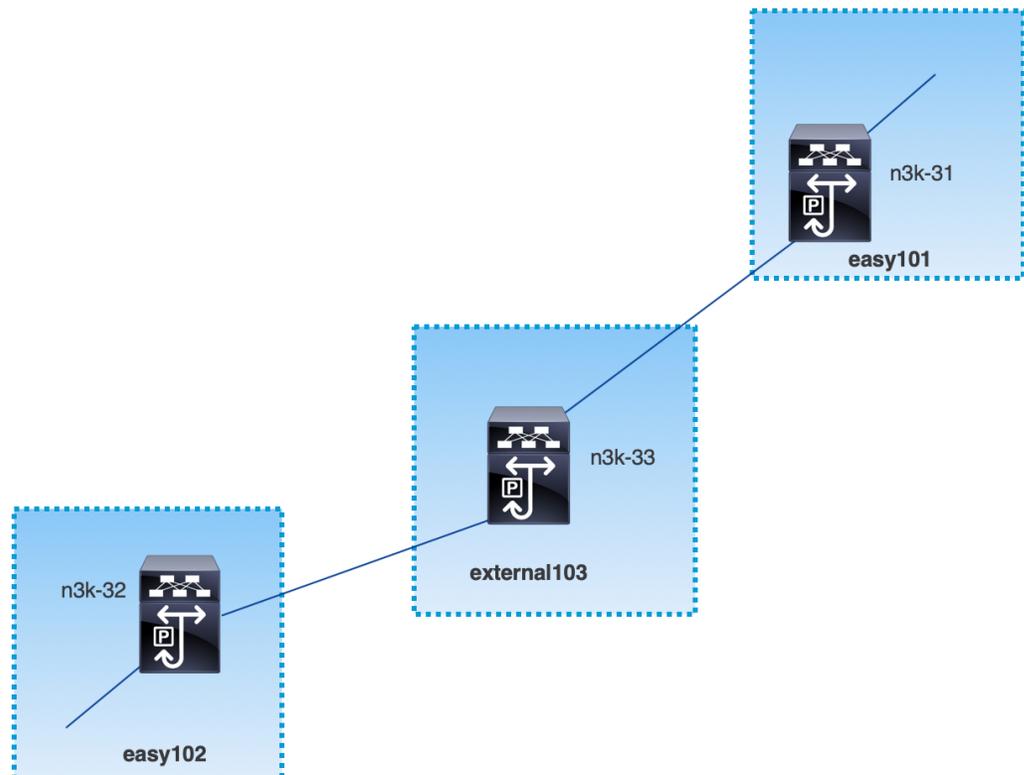
次の2つのファブリック間接続リンクが導入されています。

- アンダーレイ構成用の **VXLAN_MPLS_UNDERLAY** : このリンクは、ボーダーと外部デバイス（または MPLS または SR-MPLS の P ルータ）の間の各物理リンクまたはレイヤ 3 ポート チャンネルに対応します。複数のリンクが 1 つ以上の外部デバイスに接続できるため、ボーダー デバイスは複数のファブリック間接続リンクを持つことができます。
- eBGP オーバーレイ設定用の **VXLAN_MPLS_OVERLAY** : このリンクは、DCI ハンドオフデバイスと、外部ファブリックのコアまたはエッジルータ、または別のファブリックの別のボーダー デバイスとの間の仮想リンクに対応します。このファブリック間接続リンクは、イメージとプラットフォームの要件を満たすボーダーデバイスでのみ作成できます。ボーダー デバイスは、複数のコア ルータまたはエッジルータと通信できるため、このタイプの IFC リンクを複数持つことができます。

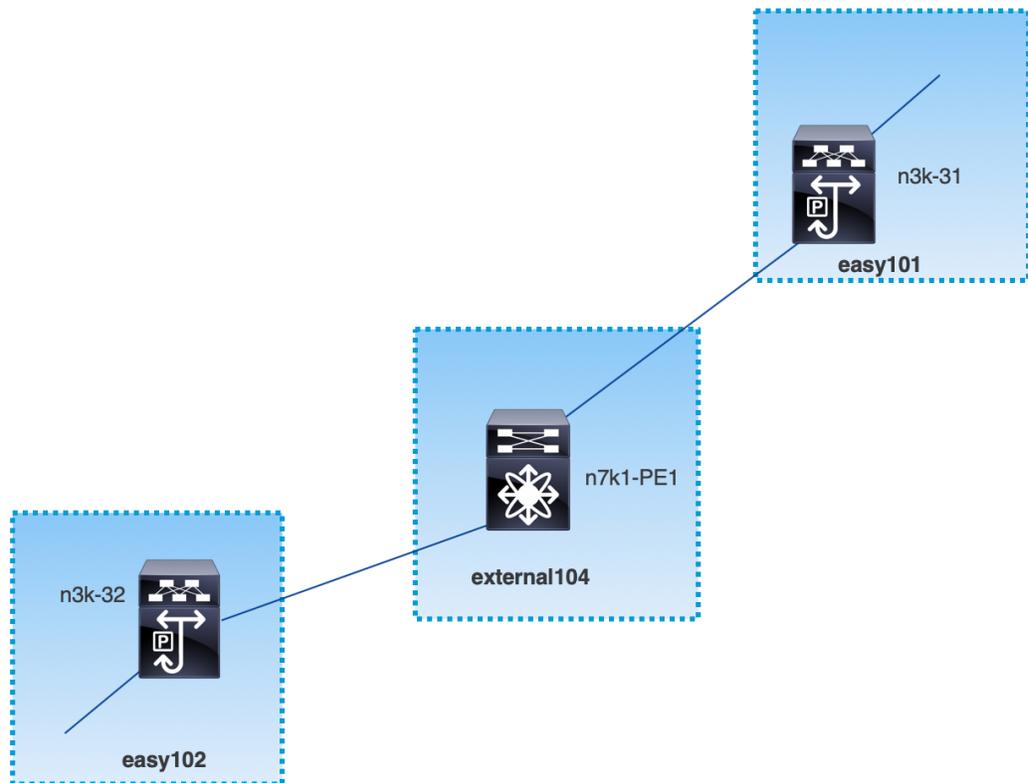
これらのファブリック間接続は、DCNM Web UI または REST API を使用して手動で作成できます。これらのファブリック間接続の自動作成はサポートされていないことに注意してください。

VXLAN MPLS トポロジ

MPLS-SR トポロジ



MPLS-LDP トポロジ



このトポロジは、Easy ファブリックのボーダー デバイスと、外部ファブリックのコアまたはエッジルータのみを示しています。

- Easy_Fabric_11_1 テンプレートを使用しているファブリックは次のとおりです。
 - **easy101**
 - **easy102**
- External_Fabric_11_1 テンプレートを使用しているファブリックは次のとおりです。
 - **external103**
 - **external104**
- 外部ファブリック **external103** は、MPLS SR プロトコルを実行しています。
- 外部ファブリック **external104** は、MPLS LDP プロトコルを実行しています。
- **n3k-31** および **n3k-32** は、VXLAN から MPLS へのハンドオフを実行するボーダー デバイスです。
- **n7k-PE1** は MPLS LDP のみをサポートします。
- **n3k-33** は SR-MPLS をサポートします。

VXLAN MPLS ハンドオフの構成タスク

MPLS ハンドオフ機能の構成には、次のタスクが含まれます。

1. MPLS ハンドオフを有効にするためのファブリック設定の編集。
2. ファブリック間のアンダーレイ ファブリック間接続リンクの作成。
ファブリック間接続リンク設定で、MPLS SR または LDP のどちらを使用しているかを指定します。
3. ファブリック間のオーバーレイ ファブリック間接続リンクの作成。
4. VXLAN から MPLS への相互接続のための VRF の展開。

MPLS ハンドオフのファブリック設定の編集

このセクションでは、Easyファブリックと外部ファブリックのファブリック設定を編集して、MPLS ハンドオフ機能を有効にする方法を示します。

Easy ファブリック設定の編集

Procedure

- ステップ 1 [制御 (Control)] > [ファブリック ビルダ (Fabric Builder)] に移動します。
- ステップ 2 [ファブリックの編集 (Edit Fabric)] アイコンをクリックして、ファブリック設定を編集します。
- ステップ 3 [Advanced] タブをクリックします。

* Fabric Name :

* Fabric Template :

General Replication vPC Protocols **Advanced** Resources Manageability Bootstrap Configuration Backup

Enable MPLS Handoff ?

* Underlay MPLS Loopback Id ? Used for VXLAN to MPLS SR/LDP Handoff (Min:0, Max:1023)

Enable Default Queuing Policies ?

N9K Cloud Scale Platform Queuing Policy ? Queuing Policy for all 92xx, -EX, -FX, -FX2 series switches in the fabric

N9K R-Series Platform Queuing Policy ? Queuing Policy for all R-Series switches in the fabric

Other N9K Platform Queuing Policy ? Queuing Policy for all other switches in the fabric

Leaf Freeform Config

Note ! All configs should strictly match 'show run' output with respect to case and n. Any mismatches will yield unexpected diffs during de

Note ! All configs should strictly match 'show run' ou

Save Cancel

[MPLS ハンドオフの有効化 (Enable MPLS Handoff)] : MPLS ハンドオフ機能を有効にするには、このチェックボックスをオンにします。

注 : ブラウンフィールドインポートの場合は、**[MPLS ハンドオフを有効にする (Enable MPLS Handoff)]** 機能を選択します。IFC 構成のほとんどは、**switch_freeform** にキャプチャされます。

[アンダーレイ MPLS ループバック ID (Underlay MPLS Loopback Id)] : アンダーレイ MPLS ループバック ID を指定します。デフォルト値は 101 です。

ステップ 4 [リソース (Resources)] タブをクリックします。

* Fabric Name :

* Fabric Template :

General	Replication	vPC	Protocols	Advanced	Resources	Manageability	Bootstrap	Configuration Backup
Manual Underlay IP Address Allocation <input type="checkbox"/> ? <i>Checking this will disable Dynamic Underlay IP Address Allocations</i>								
* Underlay Routing Loopback IP Range		<input type="text" value="10.2.0.0/22"/>	? <i>Typically Loopback0 IP Address Range</i>					
* Underlay VTEP Loopback IP Range		<input type="text" value="10.3.0.0/22"/>	? <i>Typically Loopback1 IP Address Range</i>					
* Underlay RP Loopback IP Range		<input type="text" value="10.254.254.0/24"/>	? <i>Anycast or Phantom RP IP Address Range</i>					
* Underlay Subnet IP Range		<input type="text" value="10.4.0.0/16"/>	? <i>Address range to assign Numbered and Peer Link SVI IPs</i>					
* Underlay MPLS Loopback IP Range		<input type="text" value="10.101.0.0/25"/>	? <i>Used for VXLAN to MPLS SR/LDP Handoff</i>					
Underlay Routing Loopback IPv6 Range		<input type="text"/>	? <i>Typically Loopback0 IPv6 Address Range</i>					
Underlay VTEP Loopback IPv6 Range		<input type="text"/>	? <i>Typically Loopback1 and Anycast Loopback IPv6 Address Range</i>					
Underlay Subnet IPv6 Range		<input type="text"/>	? <i>IPv6 Address range to assign Numbered and Peer Link SVI IPs</i>					
BGP Router ID Range for IPv6 Underlay		<input type="text"/>	?					
* Layer 2 VXLAN VNI Range		<input type="text" value="30000-49000"/>	? <i>Overlay Network Identifier Range (Min:1, Max:16777214)</i>					
* Layer 3 VXLAN VNI Range		<input type="text" value="50000-59000"/>	? <i>Overlay VRF Identifier Range (Min:1, Max:16777214)</i>					
* Network VLAN Range		<input type="text" value="2300-2999"/>	? <i>Per Switch Overlay Network VLAN Range (Min:2, Max:3967)</i>					
* VRF VLAN Range		<input type="text" value="2000-2299"/>	? <i>Per Switch Overlay VRF VLAN Range (Min:2, Max:3967)</i>					
* Subinterface Dot1q Range		<input type="text" value="2-511"/>	? <i>Per Border Dot1q Range For VRF Lite Connectivity (Min:2, Max:4093)</i>					

[アンダーレイ MPLS ループバック IP 範囲 (Underlay MPLS Loopback IP Range)] : アンダーレイ MPLS ループバック IP アドレス範囲を指定します。

Easy A の境界と Easy B の間の eBGP では、アンダーレイ ルーティング ループバックとアンダーレイ MPLS ループバック IP 範囲は一意的範囲である必要があります。他のファブリックの IP 範囲と重複しないようにしてください。重複すると、VPNv4 ピアリングが起動しません。

ステップ 5 [保存と展開 (Save & Deploy)] をクリックして、ファブリック内の各ボーダー デバイスに MPLS 機能を設定します。

残りのフィールドの詳細については、[新しい VXLAN BGP EVPN ファブリックの作成](#)を参照してください。

外部ファブリック設定の編集

Procedure

ステップ 1 [制御 (Control)] > **[ファブリック ビルダ (Fabric Builder)]** に移動します。

ステップ 2 [ファブリックの編集 (Edit Fabric)] アイコンをクリックして、ファブリック設定を編集します。

ステップ3 (Optional) [全般 (General)] タブで、[ファブリック モニタ モード (Fabric Monitor Mode)] チェックボックスをオフにします。

ステップ4 [Advanced] タブをクリックします。

* Fabric Name : external103
 * Fabric Template : External_Fabric_11_1

General | **Advanced** | Resources | Configuration Backup | Bootstrap

* vPC Peer Link VLAN : 3600 ? VLAN for vPC Peer Link SVI (Min:2, Max:3967)
 * Power Supply Mode : ps-redundant ? Default Power Supply Mode For The Fabric
 Enable MPLS Handoff ?
 * Underlay MPLS Loopback Id : 101 ? (Min:0, Max:1023)
 Enable AAA IP Authorization ? Enable only, when IP Authorization is enabled in the AAA Server
 Enable DCNM as Trap Host ?

[MPLS ハンドオフの有効化 (Enable MPLS Handoff)] : MPLS ハンドオフ機能を有効にするには、このチェックボックスをオンにします。

[アンダーレイ MPLS ループバック ID (Underlay MPLS Loopback Id)] : アンダーレイ MPLS ループバック ID を指定します。デフォルト値は 101 です。

ステップ5 [リソース (Resources)] タブをクリックします。

* Fabric Name : external103
 * Fabric Template : External_Fabric_11_1

General | Advanced | **Resources** | Configuration Backup | Bootstrap

* Subinterface Dot1q Range : 2-511 ? Per Border Dot1q Range For VRF Lite Connectivity (Min:2, Max:4093)
 * Underlay Routing Loopback IP Range : 10.1.0.0/22 ? Typically Loopback0 IP Address Range
 * Underlay MPLS Loopback IP Range : 10.102.0.0/25 ? MPLS Loopback IP Address Range

[アンダーレイ MPLS ループバック IP 範囲 (Underlay MPLS Loopback IP Range)] : アンダーレイ MPLS SR または LDP ループバック IP アドレス範囲を指定します。

IP 範囲は一意である必要がある点に注意してください。つまり、他のファブリックの IP 範囲と重複しないようにする必要があります。

ステップ6 [保存と展開 (Save & Deploy)] をクリックして、ファブリック内の各エッジルータまたはコアルータで MPLS 機能を構成します。

残りのフィールドの詳細については、[外部ファブリックの作成](#)を参照してください。

アンダーレイ ファブリック間接続の作成

この手順は、アンダーレイ ファブリック間接続リンクを作成する方法を示しています。

Procedure

- ステップ 1** [制御 (Control)] > [ファブリック ビルダ (Fabric Builder)] を選択します。
- ステップ 2** MPLS へのアンダーレイ ファブリック間接続を作成する VXLAN ファブリックを選択します。
- ステップ 3** ウィンドウの左上に表示される [アクション (Actions)] パネルの [表形式ビュー (Tabular view)] をクリックします。
- ステップ 4** [リンク (Links)] タブをクリックします。
- ステップ 5** ファブリックに対してすでに検出されている既存のリンクを確認します。
- この例では、**easy101** から **external103** へのリンクがすでに検出されています。
- ステップ 6** 検出された既存のリンクを選択し、[リンクの更新 (Update Link)] アイコンをクリックします。

	Update Link	Name	Name	Policy	Info	Admin State	Oper State
1	<input type="checkbox"/>	easy101	n3k-31-Ethernet1/3--n9k-1-spine-Ethernet2/1		Neighbor Present	Up:-	Up:-
2	<input type="checkbox"/>	easy101	n3k-31-Ethernet1/2--n9k-17-Ethernet2/5		Neighbor Present	Up:-	Up:-
3	<input checked="" type="checkbox"/>	easy101<->external...	n3k-31-Ethernet1/5--n3k-33-Ethernet1/5	ext_vxlan_mpls_underlay_setup	Link Present	Up:Up	Up:Up
4	<input type="checkbox"/>	easy101<->external...	n3k-31-Ethernet1/1--n7k1-PE1-Ethernet10/1		Link Present	Up:Up	Up:Up

リンクが見つからない場合は、[リンクの追加 (Add Link)] アイコンをクリックし、ファブリック間リンクを追加するためのすべての詳細を指定します。

- ステップ 7** [リンク管理 : リンクの編集 (Link Management - Edit Link)] ウィンドウで、[リンク タイプ (Link Type)] は [ファブリック間 (Inter-Fabric)] である必要があります。[リンク サブタイプ (Link Sub-Type)] ドロップダウンリストから [VXLAN_MPLS_UNDERLAY] を選択し、[リンク テンプレート (Link Template)] ドロップダウンリストから [ext_vxlan_mpls_underlay_setup] を選択します。
- ステップ 8** [リンク プロファイル (Link Profile)] で、[全般 (General)] タブに必要なすべての情報を入力します。

ファブリック間リンクの MPLS-SR 構成例

ファブリック間リンクの MPLS-LDP 構成例

[IP アドレス/マスク (IP Address/Mask)]: 送信元インターフェースのマスク付き IP アドレスを指定します。

[ネイバー IP (Neighbor IP)]: 接続先インターフェースの IP アドレスを指定します。

[MPLS ファブリック (MPLS Fabric)]: 外部ファブリックが SR または LDP を実行しているかどうかを指定します。

Note MPLS SR と LDP は、単一のデバイス上で共存できません。

[送信元 SR インデックス (Source SR Index)]: 送信元ボーダーの一意の SID インデックスを指定します。[LDP] を [MPLS ファブリック (MPLS Fabric)] フィールドで選択した場合、このフィールドは無効になります。

[接続先 SR インデックス (Destination SR Index)]: 接続先ボーダーの一意の SID インデックスを指定します。[LDP] を [MPLS ファブリック (MPLS Fabric)] フィールドで選択した場合、このフィールドは無効になります。

[SR グローバル ブロック 範囲 (SR Global Block Range)]: SR グローバル ブロック 範囲を指定します。ファブリック全体で同じグローバルブロック範囲が必要です。デフォルトの範囲は 16000~23999 です。[LDP] を [MPLS ファブリック (MPLS Fabric)] フィールドで選択した場合、このフィールドは無効になります。

[DCI ルーティング プロトコル (DCI Routing Protocol)]: DCI MPLS アンダーレイ リンクで使用されるルーティング プロトコルを指定します。is-is または ospf のいずれかを選択できます。

[OSPF エリア ID (OSPF Area ID)]: ルーティング プロトコルとして OSPF を選択した場合は、OSPF エリア ID を指定します。

[DCI ルーティング タグ (DCI Routing Tag)]: DCI ルーティング プロトコルに使用される DCI ルーティング タグを指定します。

ステップ 9 [保存 (Save)] をクリックします。

ステップ 10 [保存と展開 (Save & Deploy)] をクリックして、更新後の構成を展開します。

ステップ 11 [構成展開 (Config Deployment)] ウィンドウで、[構成の展開 (Deploy Config)] をクリックします。

ステップ 12 [ファブリック ビルダ (Fabric Builder)] ウィンドウから接続先ファブリックに移動し、[保存と展開 (Save & Deploy)] を実行します。つまり、手順 10 と 11 を実行します。

オーバーレイ ファブリック間接続の作成

この手順では、アンダーレイ ファブリック間接続を作成した後で、オーバーレイ ファブリック間接続を作成する方法を示します。オーバーレイ接続は eBGP を使用するため、オーバーレイ ファブリック間接続は MPLS SR と LDP で同じです。

Procedure

ステップ1 [リンクの追加 (Add Link)] アイコンをクリックします。

ステップ2 [リンク管理 - リンクの追加 (Link Management - Add Link)] ウィンドウで、すべての詳細を入力します。

Link Management - Add Link
✕

* Link Type

* Link Sub-Type

* Link Template

* Source Fabric

* Destination Fabric

* Source Device

* Source Interface

* Destination Device

* Destination Interface

▼ Link Profile

General

* BGP Local ASN ? BGP Local Autonomous System Number

* BGP Neighbor IP ? Neighbor IP address for eBGP peering

* BGP Neighbor ASN ? BGP Neighbor Autonomous System Number

[リンク タイプ (Link Type)] : [ファブリック間 (Inter-Fabric)] を選択します。

[リンクのサブタイプ (Link-Sub Type)] : ドロップダウンリストから **VXLAN_MPLS_OVERLAY** を選択します。

[リンク テンプレート (Link Template)] : ドロップダウンリストから **ext_vxlan_mpls_overlay_setup** を選択します。

[送信元ファブリック (Source Fabric)] : このフィールドには、送信元ファブリック名が事前に入力されます。

[接続先ファブリック (Destination Fabric)] : このドロップダウンボックスから接続先ファブリックを選択します。

[送信元デバイス (Source Device)] と [送信元インターフェイス (Source Interface)] : 送信元デバイスと送信元インターフェイスを選択します。ループバック インターフェイスの IP アドレスは、オーバーレイ eBGP ピアリングに使用されます。

[宛先デバイス (Destination Device)] と [宛先インターフェイス (Destination Interface)] : 送信元デバイスに接続する宛先デバイスとループバック インターフェイスを選択します。

[リンク プロファイル (Link Profile)] セクションの [全般 (General)] タブ。

[BGP ローカル ASN (BGP Local ASN)] : このフィールドには、送信元デバイスの AS 番号が自動入力されます。

[BGP ネイバー IP (BGP Neighbor IP)] : このフィールドには、eBGP ピアリングの宛先デバイスのループバック インターフェイスの IP アドレスを入力します。

[BGP ネイバー ASN (BGP Neighbor ASN)] : このフィールドには、宛先デバイスの AS 番号が自動入力されます。

ステップ 3 [保存 (Save)] をクリックします。

ステップ 4 [保存と展開 (Save & Deploy)] をクリックして、更新後の構成を展開します。

ステップ 5 [構成展開 (Config Deployment)] ウィンドウで、[構成の展開 (Deploy Config)] をクリックします。

ステップ 6 [ファブリック ビルダ (Fabric Builder)] ウィンドウから接続先ファブリックに移動し、[保存と展開 (Save & Deploy)] を実行します。つまり、手順 4 と 5 を実行します。

Note MPLS オーバーレイ リンクのいずれかの端に VRF がアタッチされていない場合のみ、MPLS オーバーレイ IFC リンクを削除できます。

VRF の展開

この手順は、VXLAN から MPLS への相互接続に VRF を展開する方法を示しています。



Note 4 バイトの ASN を使用し、自動ルート ターゲットが構成されている場合、自動的に生成されるルート ターゲットは 23456:VNI です。2 つの異なるファブリックの 2 つの異なる VRF に同じ VNI 値がある場合、自動ルート ターゲットにより、2 つの VRF のルート ターゲットは同じになり、値 23456 は常に一定です。VXLAN MPLS ハンドオフを介して接続された 2 つのファブリックの場合、これにより、意図しないルート交換が発生する可能性があります。したがって、セキュリティ上の理由から自動ルート ターゲットを無効にする場合は、ネットワーク テンプレートとネットワーク 拡張テンプレートをカスタマイズすることで無効にすることができます。

Procedure

ステップ 1 [制御 (Control)] > [ファブリック (Fabrics)] > [VRF] に移動します。

ステップ 2 [VRF] ウィンドウで、[追加 (Add)] アイコンをクリックして VRF を作成します。詳細については、[スタンドアロン ファブリックの VRF の作成](#) を参照してください。

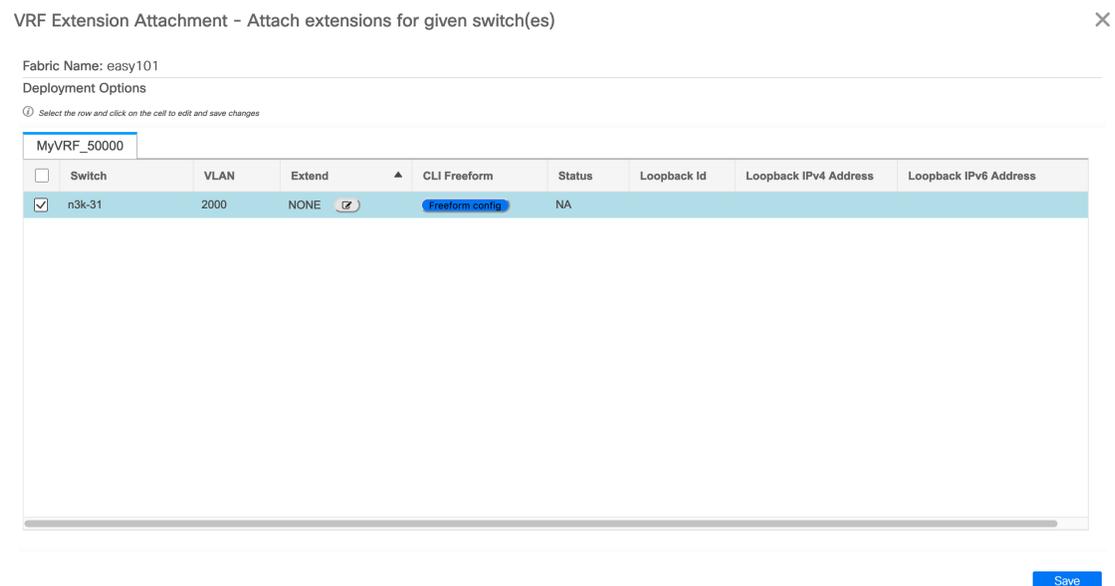
ステップ 3 新しく追加された VRF を選択し、[続行 (Continue)] をクリックします。



ステップ 4 [VRF 展開 (VRF Deployment)] ウィンドウで、ファブリックのトポロジを確認できます。ボーダー デバイスを選択して、MPLS LDP IFC リンクが作成されるボーダー デバイスに VRF をアタッチします。

この例では、**n3k-31** は **easy101** ファブリックのボーダー デバイスです。

ステップ 5 [VRF 拡張アタッチメント (VRF Extension Attachment)] ウィンドウで、VRF を選択し、[CLI フリーフォーム (CLI Freeform)] 列の下にある [フリーフォーム構成 (Freeform config)] ボタンをクリックします。



ステップ 6 次のフリーフォーム構成を VRF に手動で追加します。

```
vrf context $$VRF_NAME$$
  address-family ipv4 unicast
    route-target import $$REMOTE_PE_RT$$
  address-family ipv6 unicast
    route-target import $$REMOTE_PE_RT$$
```

自由形式構成では、**REMOTE_PE_RT**は、ネイバーが DCNM によって管理される Easy ファブリックのボーダー デバイスである場合、**ASN:VNI** 形式のネイバーの BGP ASN および VNI 番号を参照します。

① All configs should strictly match 'show run' output, with respect to case and newlines. Any mismatches will yield unexpected diffs during deploy.

```
vrf context MyVRF 50000
address-family ipv4 unicast
route-target import 103:50000
address-family ipv6 unicast
route-target import 103:50000]
```

Save Config

- ステップ 7 [構成の保存 (Save Config)] をクリックします。
- ステップ 8 (Optional) ボーダー デバイスのループバック ID とループバック IPv4 アドレスと IPv6 アドレスを入力します。
- ステップ 9 [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 10 (Optional) [プレビュー (Preview)] アイコン ([VRF 展開 (VRF Deployment)] ウィンドウ) をクリックして、展開される構成をプレビューします。
- ステップ 11 [展開 (Deploy)] をクリックします。

ネイバーが DCNM によって管理される Easy ファブリックのボーダー デバイスである場合は、接続先ファブリックで手順 3 から手順 11 までの同じタスクを実行します。

ルーティング プロトコルと MPLS 設定の変更

この手順では、デバイスのルーティング プロトコルを IS-IS から OSPF に変更する方法、またはアンダーレイ IFC を MPLS SR から LDP に変更する方法を示します。



Note MPLS SR と LDP はデバイス上で共存できず、同じデバイスで MPLS ハンドオフに IS-IS と OSPF の両方を使用することはサポートされていません。

Procedure

- ステップ 1 DCI ルーティング プロトコルまたは MPLS ファブリックの変更が必要な場合には、デバイスから、すべての MPLS アンダーレイおよびオーバーレイ IFC を削除します。

ステップ 2 IFC の削除に関係する各ファブリックについて、[保存と展開 (Save & Deploy)] をクリックします。

この手順により、すべてのグローバル MPLS SR/LDP 構成と、以前に作成された MPLS ループバック インターフェイスが削除されます。

ステップ 3 優先される DCI ルーティング プロトコルと MPLS 設定を使用して、新しい IFC を作成します。詳細については、[アンダーレイ ファブリック 間接続の作成](#), on page 9 を参照してください。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。